高校野球におけるバントと得点に関する一考察

山口　将介　(競技スポーツ学科　コーチングコース)
指導教員　植田実

キーワード：高校野球　バント　スモールベースボール

１．緒言

近年、WBC での連覇など、日本の野球が注目されている。その中でも日本野球の象徴になっているのが、スモールベースボールである。スモールベースボールとは長打での得点に頼らず、犠打や機動力を駆使した戦術であり、外国人選手などに体格やパワーで劣る日本人に適しているスタイルの野球であるといえる。また、プロに比べアマチュア野球、特に高校野球では、体格や技術レベルが低く、必然的に連打、長打に頼るよりも小技や機動力を用いたほうが有効であるのではないかとされる。

そこで、本研究ではバントに着目し、バントがどのような場面に行われ、いかに得点に関わってきているかを明らかにすることを目的とする。

２．研究方法

対象：第 93 回全国高校野球選手権大会(2011)
　　における全バントシーン
方法：① VTR 分析(項目は以下の６つ)
　　・イニング　・アウトカウント
　　・打順　　・点差
　　・出塁要因　・得点したか
　　②文献調査

３．結果と考察

VTR 分析の結果から、バントはイニングでみると、序盤から中盤にかけて行われることが、全体の 63%と、点差の開いていない試合展開で 1 点を確実に取りにいくための作戦として非常に重要であるといえる。さらに、アウトカウントでは、ノーアウトの場面に行われることが全体の 80%と大きく占め、作戦としてはノーアウトで行う事が最も有効であるといえる。また、出塁の要因をみると四死球、エラーなど守備側のミスからの出塁が、203 個のバントを行った全体の 40%を占めていることから、四死球などのバッテリーエラーをいかに少なくしていくかがバント数に大きく関わってくるといえる。全 48 試合の総得点 428 点の内、バントが関連し得点したケースは 105 点あり、全体の得点の約 25%が、バントが関わった得点となった。また、バントが成功し進塁したランナーが得点したケースは 203 個中 105 個で、バントと得点は大きく関わっているといえる。さらに、アウトカウント、打順、得点圏からなど条件が重なれば重なるほど、得点期待値は上がると考えられた。

４．まとめ

今回の研究で、高校野球においてバントを行うことが得点に大きく関わってきていることが明らかになった。今後の課題としてバントを行った場合とヒッティングの場合の得点の差異を明らかにすることが必要であると感じた。

参考文献

・川村　卓・中村　計(2007)『徹底データ分析　甲子園戦法　セオリーのウソとホント』(P,51～P,58)朝日新聞社
・大矢明彦(2002)『大矢明彦的「捕手」論』(P,142～P,144)二見書房